日本の学童ほいく 普及拡大ニュース

全国学童保育連絡協議会

みんなで読もう！ 目標 3万6000部

2022年1月5日

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。みんなで読んで、語って、楽しみながら、よりよい学童保育をつくっていきましょう。

元気が出るみんなの取り組みをご紹介

楽しく普及拡大

ほいく誌を寸劇で楽しくアピール！

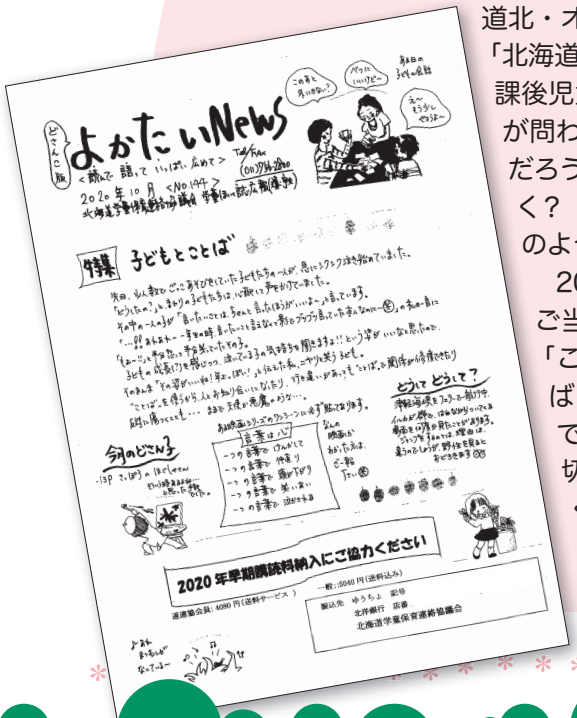
こういうときだからこそ『日本の学童ほいく』仲間を、増やしたい！

北海道の取り組み

全国の『日本の学童ほいく』普及拡大会議に参加し、「目に見える形」での広報活動を一念発起！ から早10年。かつては、研修の講師をした全国連協役員の皆さんにも広報パフォーマンス寸劇に登場いただくなど、とにかく道連協一丸となって楽しみながら宣伝していました。

北海道学童保育連絡協議会は、「放課後児童支援員認定資格研修」を受託して、6年前から道北・オホーツク・道東・道央・道南・十勝の6会場で実施しています。また、「北海道　札幌　学童保育研究集会」が、2017年から北海道との共催となり、「放課後児童支援員等資質向上研修」と位置づけられました。保育実践や保育の質が問われるなかで、ほいく誌の存在はこれまで以上に広く知られることになるだろう……と思っていました。しかし、各会場に赴くと「にほんのがくどうほいく？　知りません」という方が本当にまだまだ多くいらっしゃる……いままでのような広報では足りないのだな……と思い知らされた瞬間でもありました。

2020年、対面での研修はできなくなりましたが、唯一の広報でもある、ご当地版学童ほいく誌ニュース『どさん子版よかたいニュース』の発行は、「このようなときこそ購読をやめないでほしい！　全国に同じ思いでがんばっている人がいるよ！」の願いを込めて毎号作成し、ほいく誌にはさんで送付。また、2021年度の全国学童保育指導員学校・北海道会場を皮切りに、待ってました！　とばかりに、学童保育の生活の様子をもりだくさんに、広報動画の作成に着手しました。購読者も一緒に地域で普及してもらえるよう、そして、実践に役立つこと請け合い！と噂になるような広報活動を推進したいと思います。



＊毎号『日本の学童ほいく』を紹介する「どさん子版よかたいNews」を発行！

日本の学童ほいく1月号

特集　本を楽しむひとときを

本との出会いや、それにまつわる思い出は、多くの人がお持ちなのではないでしょうか。
今回の特集では、皆さんと共に「本を楽しむひととき」を交流します。

全国学童保育連絡協議会

日本の学童ほいく 普及拡大ニュース

みんなで読もう目標3万6000部

2022年1月5日

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。

読者の声

滋賀県東近江市●保護者から

9月21日、子どもと「中秋の名月にお月見をしよう」と話し、お団子をつくることを計画していました。ところが、21日の天気予報は「くもり」。どうしようか……と思っていたところ、前日の20日、キレイなお月様が出ていました。それを見た息子が、「いまからお月見しよう」と言いだし、急きょ、お団子づくり。できあがったところで、すぐにお月見がはじまりました。

外で月を見ながらお団子を食べるだけでしたが、とても楽しかったようで、21日にも、「今日がお月見の日やから、お団子つくろう」。お月様は見えなかったけれど、お団子をつくり、室内で食べて、お月見気分を味わいました。季節の行事や昔からの習わしを子どもといっしょに楽しむのもいいなと思います。

(『日本の学童ほいく』2022年1月号「読者のひろば」より)

石川県津幡町●保護者から

2021年8月号の特集「一人ひとりを大切に――子どもの気持ちに気づく」に掲載された、養護教諭・塩澤真穂美さんの記事が印象的でした。とくに心に残ったのが、「関わる人たちで、『この子を大事にしたい』という気持ちと、『成長のためになにが必要だろうか』と意識をあわせること。同じ方向を向いていれば、子どもへのアプローチの方法は、それぞれの役割やそれぞれの持っている力や個性によって違っていいと思います」という一文です。

これは、子育てについて夫婦間で考え方が異なることから口論になることもあるわが家にとって、救いとなるメッセージでした。たしかに、めざす方向性が大きく違わないのであれば、子どもへの話し方、なにを促すか、その順序などが、夫と私とで異なっていても問題はないはずです。むしろ、子どもにとっては、別の視点からの選択肢が増えることになり、生き方の多様性につながるかもしれません。また、「自分のことも大切に、そして子どもを信じて」との塩澤先生の言葉に、「『一人ひとりを大切に』という表題には、子どもだけでなく、おとなも含まれているのか……」と気づき、思わず涙ぐんでしまいました。

これからも、しばらくはコロナ禍で不自由な生活がつづくでしょうが、誠意を持って家族や自分と向きあい、幸せに子育てしていきたいと思います。

(『日本の学童ほいく』2021年11月号「読者のひろば」より)

全国連協役員リレー執筆・今月は石川の重木奈穂美さん
私と「ほいく誌」

私がはじめて『日本の学童ほいく』と出会ったのは、娘が学童保育に入所した20年前のことです。保護者と指導員の全員が購読していましたので、娘が1年生の4月号から手にとることができました。そのころは「読みもの」として楽しんでいたように思います。学童保育のことが少しわかってくると、記事の中から学童保育で大切にされていることが少しずつ見えてきて、我が子の通う学童保育の指導員が伝えてくれる保育内容が理解できるようになり、親としてとても安心できたことを思い出します。その後、縁あって指導員になったのですが、初出勤の日が近づいてくると「知識も経験もない私が子どもたちとうまくかかわれるのだろうか……」と、どんどん不安になっていきました。そんなとき、手にとったほいく誌に掲載されていた「大人として子どもたちに注意する場面が多かった新人指導員が、じつは自分は新参者で子どもたちの方が先輩なんだと気づき、子どもたちと関係をつくり直していく」という内容の記事に出会い、子どもたちに仲間の一人として迎えてもらう心の準備ができました。バックナンバーは宝物です。何年前のものであっても、悩んだり迷ったりしたときに「これ!」と思える気づきをもらえます。それはほいく誌のなかに「変わらない大切なもの」がちゃんとあるからなんだと思います。だからこそ、保護者と指導員が共に購読することに大きな意味があると私は実感しています。

編集・発行 全国学童保育連絡協議会 〒113-0033 東京都文京区本郷2-26-13 TEL●03-3813-0477 FAX●03-3813-0765
E-mail●zghrk@xui.biglobe.ne.jp http://www2s.biglobe.ne.jp/~Gakudou